

書誌調整連絡会議
2016.3.3

新しい『日本目録規則』 (新NCR)策定について

渡邊 隆弘
(帝塚山学院大学／
JLA目録委員長)

watanabe@tezuka-gu.ac.jp

☆目次

1. 新NCR策定の経緯とその背景
2. 新NCRの構成と特徴
3. 進捗状況と今後のスケジュール

☆新NCRに関する情報

◆日本図書館協会(JLA)目録委員会

<http://www.jla.or.jp/mokuroku/>

「日本目録規則(NCR)改訂に関する情報」
目録委員会議事録

◆国立国会図書館(NDL)収集書誌部

<http://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/>

「新しい『日本目録規則』(新NCR)」
書誌調整連絡会議資料

☆目次

1. 新NCR策定の経緯とその背景

策定の経緯(2006～)

策定の背景:目録法の変革、「NCR」の流れ

2. 新NCRの構成と特徴

3. 進捗状況と今後のスケジュール

☆新NCR策定の経緯

- ◆ **2006 「1987年版改訂3版」**
「1987年版の最後の改訂」(目録委員会報告)
以後、抜本改訂をにらんでRDA調査等
- ◆ **2010.9 改訂方針を表明(JLA目録委員会)**
全国図書館大会奈良大会(分科会開催)に合わせて表明
「201X年版」(完成時期は明示できず)
これからの目録は「資料のもつ潜在的利用可能性を
最大限に顕在化する道具であるべき」
- ◆ **2013.2 進捗状況の提示(JLA目録委員会)**
この時点では、4部構成の案：
「総説」「資料の記録」「典拠形アクセス・ポイント」「関連」

☆新NCR策定の経緯(続)

- ◆ **2013.9 JLAとNDL収集書誌部との連携作業**
NDLでは「書誌データ作成・提供の新展開」(2013)の一環
スケジュール「2017年度に新規則公開」
- ◆ **2014.2 書誌調整連絡会議(H25年度)**
全体構成:「総説」「属性」「関連」の3部構成
資料の種別に関わる条文案の公開
- ◆ **2015.2 書誌調整連絡会議(H26年度)**
アクセス・ポイントに関わる条文案の公開
- ◆ **2015.9 スケジュール見直し**
- ◆ **2016.3 書誌調整連絡会議(H27年度)**
体現形の主要な属性に関わる条文案を公開

☆新NCRの背景(1):目録法の変革

◆変革の(そのまた)背景

◆対象資料の多様化

特に、資料の内容的側面(コンテンツ)と
物理的側面(キャリア)の問題

→「資料種別」の問い直し

→「著作」と「版」という枠組みの問い直し

◆目録の作成・提供環境の電子化

OPACを前提とした目録法に

→「記述」と「標目」という枠組みの問い直し

→機械可読性の重要性

インターネット時代の目録法に

→国際的な標準化の、(さらなる)重要性

→より広い利用範囲を想定(LODなど)

☆新NCRの背景(1):目録法の変革(続)

◆概念モデル(FRBR Family)

FRBR(1997)、FRAD(2009)、FRSAD(2011)

はじめて、概念モデルを明確化

◆目録原則

国際目録原則(ICP)(2009)

ISBD統合版(2011)

1960～70年代に確立した原則の見直し

◆準国際的な目録規則

RDA(2010)

AACR2(1978)の抜本改訂

国際的な広がり

これらにきちんと対応した新規則を

☆新NCRの背景(2):「NCR」の流れ

◆NCR1965

パリ原則に則った著者基本記入方式

◆NCR1977(新版予備版)

記述ユニット・カード方式(非基本記入方式)

◆NCR1987

記述ユニット方式(非基本記入方式を継承)

ISBD準拠

書誌階層構造の考え方を導入

国際的な標準化から距離を置いた部分
→ どうしていくかが、新NCRの策定
および今後の運用の課題

☆目次

1. 新NCR策定の経緯とその背景

2. 新NCRの構成と特徴

策定の基本方針

新NCRの特徴①～⑬

3. 進捗状況と今後のスケジュール

☆ 新NCR策定の基本方針

- ◆ 国際標準(ICP等)に準拠
=FRBRを基盤とする規則
- ◆ RDAへの対応を重視
エレメントの設定は、基本的に対応
- ◆ 日本における出版状況、目録慣行に配慮
あえてRDAと異なる本則とする箇所も
- ◆ 論理的でわかりやすく、実務面で使いやすく
あえてRDAと異なる構成をとる箇所も
- ◆ 名称、刊行形態は現時点では未定
「日本目録規則」の名称は残す？

☆ 新NCRの特徴

- ◆ ① **FRBR**等の概念モデルに密着した規則構造
「総説」「属性」「関連」の構成
扱う実体ごとの章立て
- ◆ ② 典拠コントロールを明確に位置付け **FRBR**
「著作」「個人」「団体」等も実体として、諸属性を設定
(従来の規則では、「標目」「参照」の規定のみ)
- ◆ ③ 全著作の典拠コントロール **FRBR**
著作のAAP = 優先タイトルと作成者のAAPを結合
1987年版からの大きな転換

☆新NCRの特徴

- ◆ ④ 物理的側面と内容的側面の整理 **FRBR**
内容的側面(著作・表現形)を、これまでより重視
資料種別の再編成
- ◆ ⑤ 関連の記録 **FRBR**
実体の属性とは別立てで重視
目録提供時のリンク機能が無理なく提供できる
「関連指示子」で関連の詳細な種別を表現
- ◆ ⑥ 書誌階層構造
考え方は維持
関連の一種に相当

☆新NCRの特徴

- ◆
- ◆ ⑦ エレメントの設定 **RDA**
データ処理上の利便性から、より小さな単位で設定
注記、「その他の形態的細目」等を細分
RDAに存在するエレメントは、すべて設定
コア・エレメントの明示
- ◆ ⑧ 語彙のリスト **RDA**
転記によらない多くのエレメントに、語彙リスト
RDAの語彙をベースに、若干独自ののものも

☆新NCRの特徴

- ◆ ⑨ 意味的側面と構文的側面の分離 **RDA**
エンコーディングや記述文法は、扱わない
意味的側面に限定した規則に
構文的側面は、広い相互運用性が望ましい
- ◆ ⑩ 機械可読性の向上 **FRBR** **RDA**
①～⑨の帰結

☆新NCRの特徴

- ◆ ⑪ アクセス・ポイントの言語・文字種と読み
日本(語)の優先タイトル・名称は、漢字仮名交じり形
+片仮名形の読み
- ◆ ⑫ RDAとの互換性 **RDA**
エレメントの整合
NCR1987とRDAとの規定の違い
RDAに優位性、甲乙つけがたし: RDAに合わせる
RDAと異なる規定をとる場合は、RDA方式を別法に
- ◆ ⑬ NCR1987からの継続性
体現形の記録が、書誌データの基盤
個々の条項レベルでは、多くを継承
RDAに応じて変更する場合は、NCR1987方式を別法に

☆目次

1. 新NCR策定の経緯とその背景

2. 新NCRの構成と特徴

3. 進捗状況と今後のスケジュール

策定の作業

現在の進捗状況

完成に向けた、今後のスケジュール

その後の課題(私見)

新NCRの策定作業(エレメント群ごとに順次)

JLA目録委員会

NDL収集書誌部

分担作業、委員会(月1)

目録委員会原案作成

委員会原案受領

NDL案受領

NDL条文案作成

両者で、調整・議論

条文案の公開

両論併記の箇所や、
今後検討すべき課題が残る場合も

☆JLA目録委員会の構成

入れ替わりつつ、概ね10名前後

大学教員等 2～3名(現在2)
国会図書館 2～3名(現在2)
大学図書館 3～4名(現在4)
MARC作成会社 現在2名(2014～)

公共図書館 2014年春以降、委員なし
国立情報学研究所 2013年秋以降、委員なし
学校図書館、専門図書館 長らく委員なし

☆2016年3月現在の進捗状況

◆条文案公開済

アクセス・ポイントに関わる諸章
著作、表現形、個人・家族・団体の、アクセス・ポイント
に関する属性と、アクセス・ポイント構築
体現形の主要な属性 (本日)

◆目録委員会原案作成済、NDL条文案作成中

著作、表現形のその他の属性
体現形の属性の一部(刊行方式など)
場所の属性

◆目録委員会原案作成中

関連に関する諸章、序説・総説・属性総則、注記
付録は、検討をはじめた段階

☆完成に向けた、今後のスケジュール

2016年度(平成28年度)

- ◆ 新規則案(全体案)の公開(JLA・NDL)
パブリックコメントの募集
- ◆ 新規則案に対する検討集会を開催(JLA・NDL)
東京、関西各1回を想定
- ◆ 国内で共通に適用できるよう関係機関と調整
(NDL・JLA)
想定調整先: 公共図書館、NII、
MARC作成会社、国文研等
- ◆ 新規則案を適用した試行データ作成・評価
(関係機関・NDL)

☆完成に向けた、今後のスケジュール(続)

2017年度(平成29年度)

- ◆ 新規則案(全体案)の修正(JLA・NDL)
パブリックコメント、関係機関の意見も踏まえて
- ◆ 新規則の公開(JLA・NDL)
規則名称、刊行形態は現時点では未定
- ◆ 書誌データ作成機関向けの実務研修(JLA・NDL)

☆ その後の課題(私見)

◆ データ作成機関の対応

NDLは対応するとして、NACSIS-CAT等は？

◆ 「対応」の内実

特に、これまでと大きく異なる部分への対応
著作(、表現形)の典拠コントロール
関連の記録

現NCRよりも、自由度の高い規則

これまでと変わらないデータも許容される
(それでは、新規則の意味があまりない)

NDLの適用細則(他の機関への影響もあるかも)

◆ 刊行後の維持体制

刊行して終わりではない

今のところ公式には、刊行までの協力体制のみ

●新 NCR の構成案 (2016.2 現在)

目録委員会報告
序説

章名の[]は、当面作成を保留している章
(RDA で未刊となっている部分に、ほぼ相当)

第1部 総説
0章 総説

第2部 属性

<属性の記録>

セクション1 属性総則

1章 属性総則

セクション2 著作、表現形、体现形、個別資料

2~5章 実体別 (体现形、個別資料、著作、表現形)

セクション3 個人、家族、団体

6~8章 実体別 (個人、家族、団体)

セクション4 概念、物、出来事、場所

9~12章 実体別 ([概念]、[物]、[出来事]、場所)

<アクセス・ポイントの構築>

セクション5 アクセス・ポイント

21章 アクセス・ポイントの構築総則

22章~32章 実体別 (著作、表現形、[体现形]、[個別資料]、個人、家族、団体、
[概念]、[物]、[出来事]、[場所])

RDA では、セクション1 を体现形・個別資料、
セクション2 を著作・表現形とし、それぞれに
「一般指針」と複数章を置くが、新 NCR では
1 実体 1 章とし、「属性総則」を先頭に置く

RDA では、著作・個人等の章で属性とアクセ
ス・ポイントの両方を扱うが、新 NCR ではア
クセス・ポイントの構築は独立した章とし、セ
クション5 にまとめる。RDA がない「アクセ
ス・ポイントの構築総則」も置く。

第3部 関連

セクション6 関連総則

41章 関連総則

セクション7 著作、表現形、体现形、個別資料の関連

42章 資料に関する主要な関連

43章 資料に関するその他の関連

44章 資料と個人・家族・団体との関連

45章 [資料と主題との関連]

セクション8 その他の関連

46章 個人・家族・団体の間の関連

47章 [主題間の関連]

RDA では、関連に6セクション21章をあてる
が、新 NCR では構成を簡素化し、章の順序も
一部変更する。RDA がない「関連総則」も置
く。

付録 (含:用語集)